

普及現地情報

発信年月日：平成 28 年(2016 年)2 月 25 日
所属名：湖東農産普及課
番号：F15016
部門分類：430（地域・農村計画）
発信者名：湖東地域農業活性化推進チーム（湯浅）

中山間地集落での「人」の活用をめざして（多賀町霜ヶ原）

2 月 21 日（日）、多賀町霜ヶ原生活改善センターにて、農業・農村活性化サポートセンターアドバイザーの上田洋平先生（滋賀県立大学地域共生センター助教）を招き、講演後、「T型集落点検」に基づくグループワーク*を実施しました。

中山間地域の多賀町霜ヶ原は、近い将来、担い手不在による耕作放棄地の発生が懸念されています。今年度、関係機関による多賀町戦略推進会議において、霜ヶ原を支援対象集落として選定後、これまで集落の活力チェックシートによる集落役員に対する聞き取り等の活動を実施してきました。

その中で、「以前から問題意識を感じていたが、今まで集まって話し合いをしたことはなかった」とのことから、今後、耕作者だけでなく、農業の担い手不足を集落全体の課題として位置づけ、解決に向けた具体策を検討する機会が持たれるよう働きかけてきました。

当日は、集落自治会の総会の日であり、集落住民 20 数戸のうち 15 名（うち女性 6 名）、関係者 5 名（町：1 名、戦略室：1 名、田園振興課 2 名、当課 1 名）の出席がありました。

上田先生は講演の中で、地域にある資源として特に重要なものは「人」であり、「人」も現在集落に住んでいる人だけではなく、もっと広い範囲で「人」のつながりを取り戻すことが必要であると強調されました。

講演に引き続き、「T型集落点検」に基づくグループワーク*を、上田先生の助言を得ながら当課の進行で実施しました。グループワークは非常に活発な意見交換のもとに進み、住民だけでなく支援に入った関係者一同も、集落外までに範囲を広げると、「人」の資源が豊富にあることを共通認識できました。

今回のきっかけ作りにより、今後、課題解決に向けた具体的な行動計画を話し合う機会が持たれるよう、引き続き支援していきます。



上田先生による講演



グループワークの様子

※「T型集落点検」に基づくグループワーク

「T型集落点検」は、熊本大学文学部の徳野貞雄教授が考案した手法で、家族や集落がどんな状況にあるか、またこれからどんな状況を迎えることになるかを予測し、把握するために有効な点検方法。

【当日、実施した方法】

- ・ 事前に集落区長から、霜ヶ原は居住地域ごと3つの「班」に分かれていることを聞いており、参加者15名は「班」ごとに3つのテーブルに分かれて座ってもらう。
- ・ 進行役以外の関係者も各テーブルに入り、作業や議論が円滑に進むよう助言する。
- ・ 各テーブルには、住宅地図の拡大コピー（町で模造紙ほどの大きさをプリントアウト可能）、マジック、赤・青・黄の直径16ミリのラベルシール（商品名：マイタック®ラベル）を準備。
- ・ 作業手順
 - ① 現在居住している人の名前を住宅地図の各戸の余白にマジックで記入し、その横に赤のラベルシールを貼る。
 - ② 現在居住はしていないが、頻繁に帰ってくる人（呼べば1時間程度で帰ってくる人）の名前を記入し、青のラベルシールを貼る。
 - ③ 現在居住していないが、たまに帰ってくる人（お盆と正月など）の名前を記入し、黄色のラベルシールを貼る。
 - ④ 出来上がった地図を見て、フリーに議論。
 - ⑤ 上田先生よりまとめ。（総所要時間は40分程度）



作業①では貼られた赤のシールの数も少なく、淋しい集落地図であったが、作業②の段階では青のシールがたくさん貼られ、③の作業を終えると各テーブルともカラフルな地図が出来上がった。

各世帯の家族状況は、住民間では言わずと知れた情報であるかもしれないが、作業の進行とともに、自然と会話が生まれ、会場は非常に賑やかな雰囲気となった。

今後、集落が直面する課題を解決するためには、青や黄のシールが付いた範囲までの「人」の資源を活用する必要があるという、直前の上田先生の講演で強調されたことが参加者一同、視覚的に共通認識できた。